

御 礼 の 言 葉

古川正紀先生は、2010年3月末を以って、経済学部教授の任を終えられます。古川先生、35年以上の長きに渡る本学へのご貢献、ありがとうございました。そして、本当にご苦労様でした。

古川先生は昭和42年3月に九州大学経済学部を卒業後、ただちに九州大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、昭和44年3月には経済学修士を取得されました。引き続き、博士課程に進まれ、昭和48年3月に単位取得満期退学となりました。

本学との関わりは古く、博士課程在学中の昭和45年4月から4年間、本学の前身の八幡大学非常勤講師として学部学生の教育にあたってられました。その後、48年4月から八幡大学法経学部専任講師に採用され、貨幣論・景気変動論を担当されました。昭和50年4月には助教授に昇任され、経済原論・景気変動論の担当として学部学生を指導されました。その後、昭和57年4月には教授に昇任され、現在に至っておられます。また、在外研究として平成2年にはカナダのケベック州立コンコルディア大学に留学されています。

さて、古川先生は大学運営についても重要な役職に就かれるなど多大な貢献をされておられます。昭和58年から4年間、附属図書館長としてご尽力されました。平成14年5月からは3年間、副学長及び学生募集本部長として当時の大原学長を支えました。また、平成13年に大学院企業政策研究科が設立されると演習担当教授として大学院教育にも力を注がれ、平成19年から2年間、企業政策研究科長として大学院の発展に貢献されました。

古川先生の研究業績を振り返ってみますと、当初は九州大学名誉教授高木幸二郎教授の学問的な流れを汲んで価値論やインフレーション論などマルクス経済学原論を中心に研究されておられましたが、近年は原理論を応用されて現状分析を目指した日本経済論や現代資本主義論に研究領域が広がっていきました。これらの研究成果は、平成11年3月に単著『管理資本主義と平成大不況』

(ミネルヴァ書房) となって結実し、バブル経済崩壊後の日本経済についての卓見を示されておられます。さらに、1冊の編著『21世紀社会の安定化条件』(九州大学出版会、平成13年3月)、そして3冊の共著『再生産と循環』(ミネルヴァ書房、昭和48年7月)『現代資本主義の理論』(青木書店、昭和53年3月)『経済原論』(ミネルヴァ書房、昭和55年4月)を発表されておられます。その他、学術論文30本以上、学会報告10数件というように多くの研究成果を残されています。

以上のように、本学に対して研究面及び運営面で多大な貢献をされてきた古川先生ですが、その最終講義を迎えることになろうとは少し寂しくも残念な思いが胸に去来しております。

最後に、古川先生の本学及び経済学部に対するご尽力に、経済学部を代表して改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

経済学部長 野村 政修